

① 学習指導案

プログラム	No.7「看板からまちの風景を考える」
単元名 (全18時間)	デザイン絵看板
学習のねらい	高田本町商店街の絵看板を見て回ったり、実際に絵看板をつくったりすることを通して、イラストの色合いや文字の配置などに基づいて表現することをつくり変えながら、ライブキッチンの店の雰囲気やこだわりを特徴付けるデザインを見いだす。
学習内容	1 高田本町商店街で絵看板に出あい、働く人から思いを聞く 2 出あった絵看板のお気に入りベスト3を選んで紹介する 3 自分が開くライブキッチンの店舗を基に絵看板をつくる 4 つくった絵看板を高田本町商店街に飾ってライブキッチンを開く 5 自分や仲間のつくった絵看板の魅力を伝え合う
参考資料 準備品 実施場所等	高田本町商店街パンフレット、百年商店街絵看板めぐりパンフレット 板ダンボール、ダンボールカッター、ボンド、絵の具など 上越教育大学附属小学校3年2組教室、高田本町商店街

学習の流れ


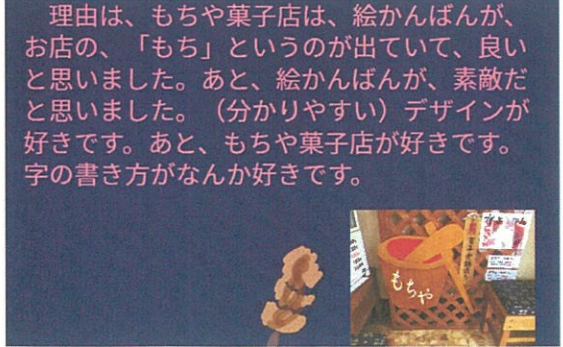
時間	学習活動	教師の指導	評価
4	○高田本町で絵看板に出あい、働く人から思いを聞く。	○高田本町商店街には様々な種類の絵看板があり、店の特徴を表していることを説明する。 ○大杉屋惣兵衛の宮越さんから絵看板に込めた思いを説明してもらおう。 ○実際に子どもと共に高田本町商店街で絵看板を見て回り、iPadで写真を撮る。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 撮影した絵看板 <input type="checkbox"/> 作文シート
2	○出あった絵看板のお気に入りベスト3を選んで紹介する。	○様々な絵看板の中から、自分なりのベスト3を選び、理由を記述するように説明する。 ○選び出した写真やその理由をロイロノートで提出することを説明する。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 選び出したベスト3の絵看板及びその理由



6	○自分が開くライブキッチンの店を基に絵看板をつくる	○イラストの色合いや文字の配置などを工夫しながら表現するように指導する。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 作成した絵看板 <input type="checkbox"/> 作文シート
4	○つくった絵看板を高田本町商店街に飾ってライブキッチンを開く	○自分がライブキッチンを開くテーブルの近くに設置するように指導する。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 作文シート
2	○自分や仲間のつくった絵看板の魅力を伝え合う	○iPadで絵看板の写真を撮り、 <input type="checkbox"/> イロノートで提出することを説明する。 ○提出された写真を見て、感想カードを送り、魅力を伝え合う。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 提出された写真や感想カード

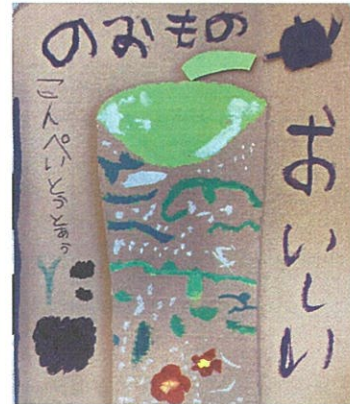
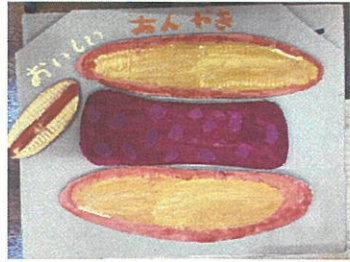
<留意点>

② 事業実施報告書詳細

学校名 上越教育大学附属小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
4	高田本町商店街	<p>子どもは、高田本町百年商店街プロジェクトの宮越代表から絵看板の歴史やデザインなどについて話を聞いた。</p> <p>その後、高田本町商店街を歩いて絵看板を探したり、お店の人に話を聞いたりした。</p>		<p>土田洋服店の絵看板の櫛が1本1本細かくつくられていることや、山田八百屋の絵看板には大きな大根が描かれていて迫力があること、杉田味噌屋の絵看板の味噌がおいしそうなどなど様々なことに気付いた。</p>
2	3年2組教室	<p>子どもは、高田本町商店街で自分が撮影した絵看板の中からお気に入りのものを選び出し、その理由をカードで書いてロイロノートで提出した。</p> <p>仲間のカードを読</p>	<p>活動記録(写真)及び対象者の反応</p>  <p>理由は、もちや菓子店は、絵かんばんが、お店の、「もち」というのが出ていて、良いと思いました。あと、絵かんばんが、素敵だと思いました。(分かりやすい)デザインが好きです。あと、もちや菓子店が好きです。字の書き方がなんか好きです。</p>	

		<p>み合って、思いや考えを交流した。</p>	 <p>私は、山田屋(多分)の絵看板が1番好きです。理由は、ちゃんと看板に「八百屋」と書いてあってわかりやすいし、文字のバランスが面白いからです。でも私が1番ツボったところは、大根です。八百屋の看板にも使われる、野菜の代表・大根!! みたいで面白いです。</p>
<p>6</p>	<p>3年2組 教室</p>	<p>子どもは、12月7日(木)に行われる高田本町商店街でのライブキッチンオープンで自分や自分たちが出す店を絵看板に表した。</p>	 <p>ポテトチップスや金平糖の絵を大きく描いたり、スイートポテトやクリームシチューをダンボールで切り抜いて色を塗ったりした。</p> <p>様々な料理の細かい部分まで絵の具で色を塗り、お店の名前や「おいしいよ」「来てください」などの言葉を付け足した。</p>



<p>4</p>	<p>高田本町 商店街</p>	<p>子どもは、12月7日(木)に、高田本町商店街のイレブンプラザでライブキッチンを開いた。オープンには、地域の人や保護者の方と共に、これまで活動でかかわってきた大杉屋惣兵衛の宮越さん、もぐら屋・鶴越の小川さん、さくらんぼ店の秋本さんも来てくれた。</p>		<p>「色平とう屋(色付き金平糖)」のお店を出した子どもは、金平糖に色を付けるために国産野菜(ほうれん草、紫芋、ビーツ、ニンジン、カボチャ)からつくられた天然の食紅を使って9種類の味をつくった。</p> <p>「大ジャム(大判焼き)」のお店を出した子どもは、さくらんぼ店の秋本さんみたいなおいしい大判焼きをつくりたいと願い、生地が焦げないように素早く大判焼きをひっくり返すことにこだわった。</p> <p>「スイーツポテト(スイートポテト)」のお店を出した子どもは、スイートポテトだけでなく、温かいミルクティーもつけてセットでお客さんに渡した。</p>
----------	---------------------	--	---	--

2	3年2組 教室	<p>子どもは、自分や仲間の絵看板の魅力やよさをロイロノートに書き表した。</p>	<p>活動記録（写真）及び対象者の反応</p> <div data-bbox="786 282 1350 707"> <p>僕はゆうさんの絵看板が良いと思いました。理由はまわりの風景まで描いてあるし（大判焼き）の文字がダンボールで切ってあってすごいなあと思ったからです。</p>  </div> <div data-bbox="786 719 1350 1095"> <p>真唯さんの絵看板 おにぎりの米粒が、一粒一粒丁寧に細かく描かれていてすごいと思いました。たった小さな光が暗闇を照らしているように、キャラクターの目の光も細かく描かれていて、私は絵の具でここまでできないと思うので、真唯ちゃんらしく綺麗な作品で憧れました。</p>  </div> <div data-bbox="786 1379 1350 1794"> <p>ひいろさんの絵看板 絵看板では、ひいろさんの絵看板がいいと思いました。理由は、これは、プレミアムアートの絵看板なので、「プレミアム」って感じがしました。あと、ホットケーキアートの形も書いていたので良いと思いました。あと、使っている物を、少しだけ絵で描いてあるのも、良いと思いました。おすすめアートが描いてあるのが、1番良いと思いました。</p>  </div>
---	------------	---	---

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

高田本町商店街には創業が百年を超える老舗の店が数多く存在している。店先には、品物などを象徴する31個の絵看板が飾られている。子どもは、そのような絵看板にふれることで、そこに込められた働く人の思いを少しずつ知っていった。創業400年以上の歴史を誇る大杉屋惣兵衛では、創業当時の看板商品である栗飴をモチーフとした絵看板が飾られ、宮越さんから栗飴への愛着や誇りを感じ取ることができた。

あわせて、子どもは、創造活動「できたてキッチン」において（公立小学校における総合的な学習の時間）、ライブキッチンとかかわることを通して、目の前で調理する臨場感や、できたての味、つくり手のこだわりなどに基づいて仲間や地域の人と場を共にする楽しさをつくり変えながら、地域とのかかわりをひろげていった。そこでは、子ども一人一人が、つくることと、味わうことを行き来しながらライブキッチンを開いている。そのため、自分が開くライブキッチンの特徴は何か考え、それを絵看板に表し、高田本町商店街で絵看板を飾りながら店をオープンすることができた。その過程を通して、自分が開くライブキッチンの雰囲気やこだわりを特徴付けるデザインは何なのか見いだした。高田本町商店街の絵看板と、自分たちが開いた店の絵看板が互いに関係し合いながら、地域とのかかわりをひろげていくことにつながったと考える。

(2) 実施にあたり苦労した点

高田本町商店街の方と活動に関する打ち合わせをしたり、実際に高田本町商店街で絵看板を飾ってライブキッチンを開いたりすることに苦労をした。しかし、子どもからは、2月に高田の朝市でライブキッチンを開いた際にも、「また絵看板をつくりたい」「今度はもっとデザインを工夫したい」などの声を挙がったため、絵看板づくりの活動をさらに行った経緯がある。教師が苦労をした分、子どもにとっては意味のある活動になったと考える。

(3) 児童の反応

<高田本町商店街で絵看板を見て回った後の作文シート>

「今日の図工で、高田本町商店街の絵かんばんを探しました。私が、いいなと思った物は、山田屋ともちやかしてんです。山田屋の絵かんばんは、『八百屋』が屋百八というようにならなくて、それが二本の大根（クロスしていた）に書いてありました。文字のバランスと大根がおもしろいです。一方、もちやかしてんは、もちは見えてないけど、うすとかあってもちつきをしている絵かんばんです。うすにきれいに「もちや」と書いてあります。文字のバランスと『人がいないのにもちつきしてるのちょっとこわいけどなんか楽しそう？で不思議な絵』がおもしろいです。」

「今日、高田本町商店街の絵かんばんを見にいきました。全部で三十一種です。どれもいんしょうてきて、つぼがたや大根がたなど色々なしゅるいがあります。中には、字だけの絵かんばんや人の絵や写真が入っている絵かんばんもあります。自分の絵かんばんのイメージは、金平とうが四つならんで、色・平・と・うとならんでいる絵かんばんです。」

<絵看板をつくった後の作文シート>

「今日、図工でオープンで使う絵かんばんを作りました。今日はまだチームで作るのではなくて、一人で作ります。わたしは、三野屋の絵かんばんを見本に、わたしの絵かんばんを作ります。何で三野屋を見本にしたかという、かんばんからとび出てる感じが立体がたでいいと思ったからです。まず、一人ずつダンボールをもらいました。わたしたちが作る絵かんばんは、ダンボールで作ります。切るのが大へんだけど、がんばる！さいしょに丸い形を切って、それにオレンジ色をぬったら、ドレッシングのボトルを作りました。少しだけほそくなってしまった所があるんだけど、いっしょにはるときにボンドで直しました。『あ、わすれてたあ！？』絵かんばんに色をぬるのをわすれていました。あとでぬろうと思っていました。チョコレートを作ります。茶色をぬって、あさってまでかわかします。トマトのホットケーキを作りました。ホットケーキの色にしました。ダンボールを切るのがむずかしかったけど、色をぬるのが楽しかったです。あさって楽しみー♡」

「今日は、高田本町商店がいのイレブンプラザでの2かい目のオープンで出すオリジナルの絵かんばんをつくりました。わたしは、どらやきをつくるのでどらやきの絵かんばんをつくりました。それで、わたしの一番のお気に入りの絵かんばんは、もちやかしてんの絵かんばんです。りゅうは、おもちをついていてすぐに何を売っているのか分かるからです。それに、もちやと書いてあるので、ひと目で分かるようになっています。どらやきを売っているよと言わなくても、たくさんの方がどらやきを食べに来てほしかったのでどらやきをでかくかきました。今はこじんでかいているけど、わたしは、チームで絵かんばんをつくるときに、〇〇くんと〇〇くとわたしの絵かんばんのいいところを入れた、分かりやすい絵かんばんをつくりたいです。それで、分かりやすいだけでなく、おいしそうだな、食べたいなと思ってくれる絵かんばんをつくりたいです。」

<高田本町商店街でライブキッチンを開いた際にお客から受け取った感想>

「今日はごちそうさまでした。たくさんアイデアを詰めこんだ一つ一つの品物がステキでした。風が強かったり、火が強くなりすぎたり、材料が取りづらかったり、色んなトラブルもありましたよね。次にどうやったら、安全でおいしくお客さまに品物を手渡せるか考えてみてください。そうすれば、もっとおいしくて楽しくて人気のお店になります。がんばりや〜！ 小川」

「子供達だけで作ったいろいろな食べ物が本当においしくてびっくりしました。これからも作りつけてほしいと思っています。 さくらんぼ店 秋本義夫・幸子より」

「今日は通りすがりで来ましたが、とても楽しく、沢山のメニューにワクワクさせてもらいました。みなさまの心のこもった料理に元気を頂きました。ごちそうさまでした。」
「明るく、元気で、楽しく、寒さにまけずおいしいものをつくってくれてありがとう。おいしかったです。」

「どのお店も前回からさらに工夫がされていてびっくりしました。ちらし、呼びこみ、かんぱん、どれもステキでした。大ぱんやき、クッキー、こんぺいとう、どれもとってもおいしかったです。ほかのお店のも食べたかったです。みんなが楽しそうに作ったり、お客さんとお話しているすがたを見て元気をもらいました！ありがとうございました！」

「3年2組のみなさんへ 2回目のオープンはとっても大盛り上がりでしたね！！味や見た目にも工夫がたくさんで、おうちの方だけでなく本町にきていたお客さんたちも『おいしい』『子どもたちが自分たちの力で作っていてすごい』『私より焼くのが上手』とほめていました。元気いっばいの声で、おなかもいっばいになったし、心も元気になりました。これからもますますがんばって下さい。ごちそうさまでした。」

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

ライブキッチンの特徴として、づくり手と食べ手が場を共にしながらかわることが挙げられる。子どもは、学校周辺の高田本町商店街や朝市などをまわり、食べ手として目の前で調理されたものを味わってきた。そして、焼きたてや揚げたてのものの見た目や手ざわり、香り、味などをとらえた子どもは、調理されたものとともに、それを調理したづくり手にも意識を向けていった。それらのづくり手の強い思いが込められたものが、店先に飾られている絵看板であることが活動を通してとらえることができた。そして、子どもが、づくり手としての思いを絵看板に込めようと活動にのめり込む姿に、教師自身も喜びを感じた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

高田本町商店街でライブキッチンを開いた際に、大杉屋惣兵衛の宮越さんやもぐら屋・鶴越の小川さん、さくらんぼ店の秋本さんなどは来ていただくことができた。しかし、それ以外にも高田本町商店街で絵看板を見て回った際にかかわった地域の人は大勢いた。そのような方々に子どもがつくった絵看板を紹介する機会をもつことができれば、さらに子どもの学びが深まったと考える。